

## 公開シンポジウム

# 「デジタル・メディア時代の政治と選挙—日本における民主主義の現在」

申込み不要・入場料無料

主催：日本学術会議社会学委員会メディア・文化研究分科会

日時：平成25年11月1日（金） 14:00～17:00

場所：日本学術会議 5F 5-C会議室

（東京都港区六本木7-22-34 東京メトロ千代田線乃木坂駅5出口）

### 開催趣旨：

2013年7月に行われた参議院議員選挙では、同年4月に改正された公職選挙法によって、初めてインターネットを使った選挙運動が認められた。しかし、結果は、戦後日本を長きに渡って支配してきた自民党の圧勝であり、保守回帰の傾向が一層強まった。投票率も、戦後3番目に低い52.61%に留まった。

いま私たちは、この結果を振り返って、選挙制度へのデジタル・プラットフォームの導入は、政治参加の拡大に直接的に貢献したり、政治的有効感を強化したりするものではないと結論づけるべきだろうか。

あるいは、結果とは別に、今回の選挙では、デジタル・メディアによって、政治コミュニケーションの質、およびダイナミズムに根本的な変化の萌芽が見出せたと言えるだろうか。そして、その変化は、今後の日本社会にどのような影響をもたらすだろうか。

シンポジウムでは、7月の参議院議員選挙で実際に何が起きていたのかについて、緑の党の推薦を受けて立候補し、インターネットを駆使して17万票以上を集めた三宅洋平氏に問題提起をお願いする。それを受けて、政治・世論研究、日本の戦後保守政治研究、メディア・社会運動研究等の立場から各研究者にコメントをもらう。その後、フロアからの質問も交えながら、デジタル・メディアが台頭する時代の日本の選挙、代議制民主主義、そして市民社会の行方について活発なディスカッションを行う。

### プログラム：

開会挨拶（14:00～14:05） 毛利嘉孝（東京芸術大学大学院音楽研究科准教授）

シンポの趣旨説明（14:05～14:15） 林香里（東京大学大学院情報学環教授）

問題提起（14:15～14:45） 三宅洋平（ミュージシャン、日本アーティスト有識者会議（NAU））

フロアからの質問（14:45～15:00）

討論（15:00～15:55） 討論者 クリス・ウィンクラー（ドイツ日本研究所専任研究員）  
逢坂巖（立教大学 兼任講師）  
遠藤薫（学習院大学法学部教授）

休憩（15:55～16:05）

全体討論（16:05～16:50） モデレーター 伊藤守（早稲田大学教育・総合科学学術院教授）

閉会挨拶（16:50～17:00） 田嶋淳子（法政大学社会学部教授）

全体司会、コーディネーター 林香里（東京大学大学院情報学環教授）